



サキユバスを召喚したら  
僕もサキユバスに!?!?

俺には好きなものが沢山ある。

中でもサキュバスはものすごく好き。

毎日のようにサキュバスものをオカズにしている。

今日もサキュバスで一発！



The illustration depicts three anime-style characters with devilish features. In the center, a girl with purple hair and horns, wearing a black bikini, has her arms raised in a surprised expression. To her right, a girl with long blue hair and horns, wearing a black top and a long black glove, looks towards the viewer with a playful expression. On the left, a girl with short teal hair and sunglasses is seen from the back, wearing a black bikini. In the background, another devil girl with wings is visible against a purple, starry night sky with a large full moon. The overall style is vibrant and detailed, typical of anime art.

本物のサキユバスに会えないかな？  
実際にいたらどんだけ気持ちいいのかな…  
ああ…サキユバスとやってみてえ〜



そんなことを考えていたがある日、転機は訪れた。

行きつけの図書館で見つけたこの本。

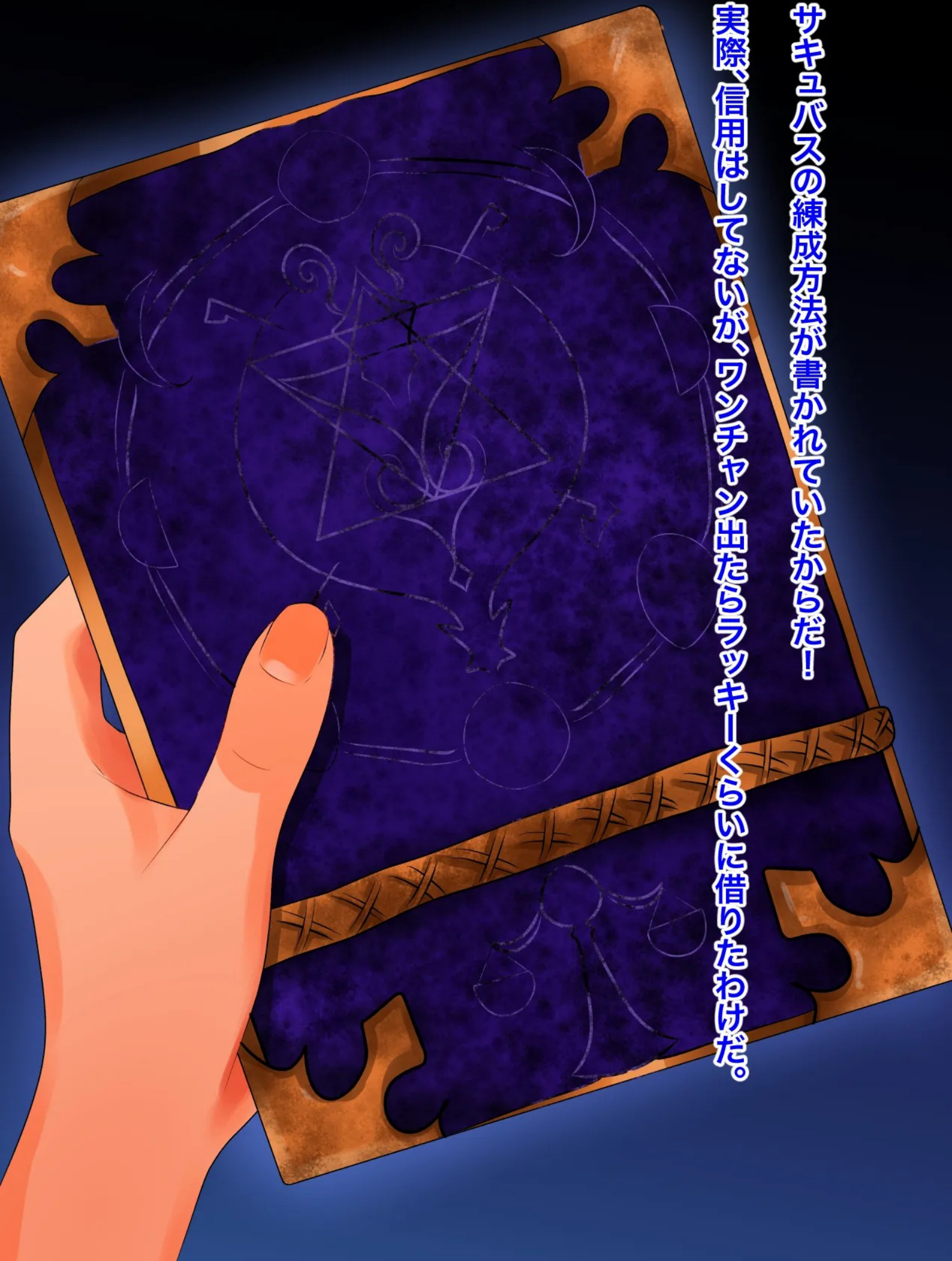
中身は黒魔術やらなんやら書かれていた。

だが、俺がこの本を借りた理由は…



サキユバスの練成方法が書かれていたからだ！

実際、信用はしてないが、ワンチャン出たらラッキーくらいに借りたわけだ。

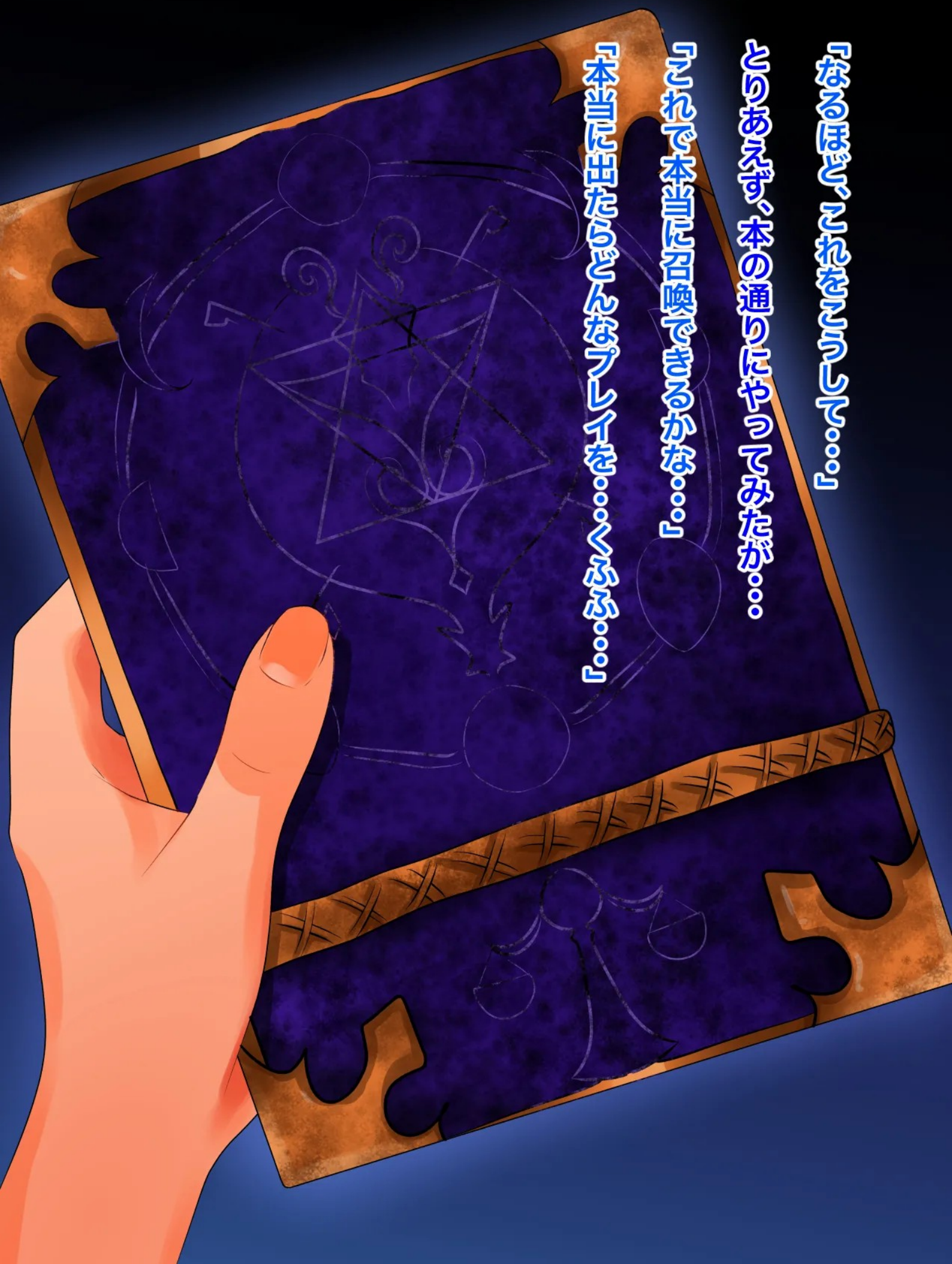


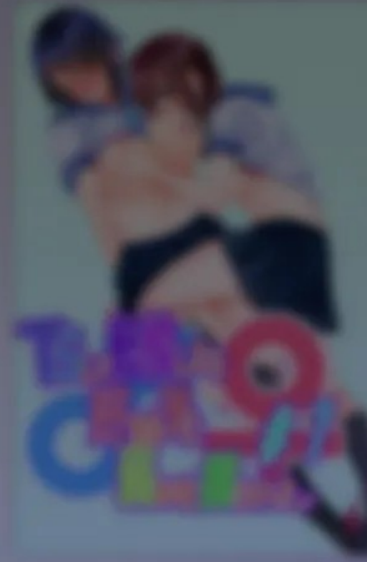
「なるほど、これをいじると…」

「とりあえず、本の通りにやってみたが…」

「これで本当に召喚できるかな…」

「本当に出たらどんなプレイを…くふふ…」





『ooooooooo』

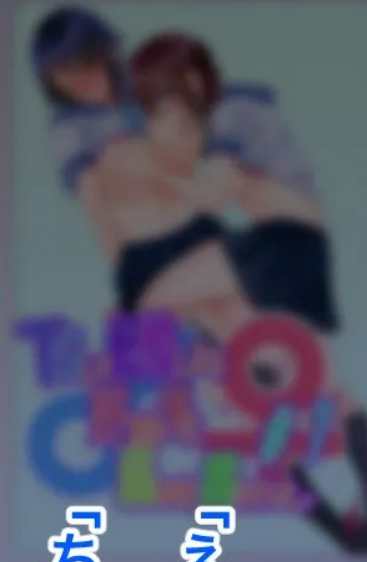




「さあ」

「ふん…ふん…ふん…ふん…」

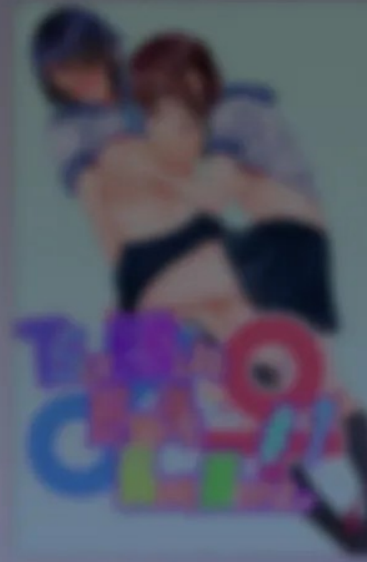




「……うん」

「え!？」





「えー?」

「ほ、本当に出てきたー?」





嘘！嘘！嘘！？

え？本物のサキュバス！？

「あなたが私を呼んだの？」

「えーあつ…はい…」

「あーびっくりしますよねー！いきなり私が出てきてー！」

本当に出てきた…でも思ってた感じじゃないな…

もう少しクールなイメージだったな…

でも、めっちゃくちやエッチな格好だ…





まさか本当にサキュバスが出て…

そのまま…

「えっと…はいはい…」

「わかりました♡」

「それじゃあ…始めますか?♡」

「ぞ、そんないきなり…お、お願いします…」



「わかりました♡」

「沢山搾ってあげますね♡」

沢山…ああ…まさかこんなことが叶うなんて…

あつでも、サキユバスに絞られるって…



「あ、あの…搾られたら俺ってどうなります?」

「え? ああ…●にますね♡多分♡」

「え!」

「じゃあ、横になって下さらいね♡」



「…ちよっ…」

「え? 俺…●ぬの?」

「まずは脚で……♡」

うおおおおおー!?

なんだ!この脚はああ!?

「どうですか?サキユバスの脚は?」

「ん……気持ちいい……」

ん

ん





「スポンから顔出しましたね♡」

「うんちほ♡」

脚…すびく気持さらら…

サキユバスの脚って…こんなだ…

「もっどグリーグリ♡グワリ♡グワリ♡」

7=11

た

4.77





「もうイっちゃったの?♡」

「はあはあ...さぶく気持ちよ〜♡...」

「もうこんなに出しちゃって...♡勿体無い♡」

「綺麗に舐めとってあげる♡」



「お掃除するからさっさと♡♡」

「それじゃあ…ああん♡」

「うっ！す、すげえ…」

「すぐ吸い付きで…舌使…」

「めっちゃくちゃ絡みどっさり…」

「んふふ♡また大きくなってきたね♡」

「そうだよね…もっと出せるよね♡」

「サキユバス最高だよ…」

「はあ…はあ…」

「んこの裏筋も…んうなると気持ちさらさら♡」

「はああ！き、気持ちさら…さら♡」

「ああ♡タマタマ上がってきたね♡」

「また、出るのかな？♡」

我慢できなら…イく…

「ら…イきます…」

「いよいよ♡全部飲んであげる♡」

「……」

「……♡♡♡」

あぁ……おぼろげに……

気持ちさらさら……

「……はぁ……」



「濃いね♡美味しいよ♡」

「はぁ…喜んでもらえて嬉しうです…」



ゴックン♡

「はぁ…♡飲んじやった♡」

俺の精子を…

「あれ？まだおち●ちん元気だね♡」

「もしかして、飲んだのみてまた興奮しちゃった？♡」

「は、はら…」

「素直な子は好きだよ♡」

「それじゃあ、体勢変えようか？♡」

「腰下ろして♡」

「じゃあ、おっぱいでジロジロしてあげる♡」

おおサキュバスのおっぱいだ…

「お、お願いします」

「ふふ♡もろ♡ん♡ん♡ん♡ん♡ん♡ん♡」



「それじゃあ…挟みま〜す♡」

「うおおおっ」

「ふんっ♡気持ちいい♡」

「ほ、はい…気持ちいいです…はあ…」

「これがパイズリ…さっきから気持ちよすぎて…」





「おっぱいの中で大きくなってるのわかるよ♡」

「もっと出してもらわないといけないから頑張ってる♡」

「精●がどんどん作られていく感じがする…」

「一滴残らず搾らせてね♡」

「あー♡シロシロ♡」

「おち●ちゃん♡頑張れ♡」

「私のために沢山どぴゅっどぴゅっ♡」

「沢山、沢山出してえ〜」

「全部、この娘に吸い取ってほしい」

「が、頑張りますっ」



「よし！私も頑張っちゃうぞ♡」

「ムロミン♡ほおろ、ムロミン♡」

「どんどん膨らんできたね♡」

「♡回回、回回♡」

「ああ…ヤバイ…」

「…おまじない…」



「んっ♡あぁ、EINEN EINEN♡」  
「おぼろ♡おぼろ♡おぼろ♡」



「ああ、垂れてる♡」

ああ、こんなに出したの初めてだ…

「沢山出せてえらいね♡」



「ふふ♡こんなに♡」

「もう私のおっぱいぐちゃぐちゃ♡」

「すげえ…」

「エッチな糸引いちゃってるね♡」

「はあはあ…流石に疲れたな…」

「ちよつと休憩していいですか？」





「え？休憩？ダメだよ？」

「そんな！もう勃てないですよ？」

「勃てるよ♡頑張れ♡」

「ほろっっんんっちはばっっ」

なんだんわっ?

「んんんんん」

「おちっちゃんか元気になる魔法♡」

おっ



ち●こがみるみる勃●して…

「ほら♡こんなに元気になった♡」

「これで続けられるでしょ?♡」

「さっきイッたばかりだからすぐく敏感になってるかもね♡」



アリスの  
CUTE

「えら♡」

あぁっ！

「はは♡らら長♡」

「おち●ちんがらももロタレ舞らしちゃっ♡」

「かわら♡」



「息荒いね♡はあ…♡」

「私も君のおち●ちん、弄ってたら…はあ♡」

「私も気持ちよくなっているかな?♡」

「サキユバスさんも…ということとは…」



「次は私のおま○こでイかせてあげようか♡」

サキユバスさんとS○X!

「っ!」





「♡ん♡」



「もう、入れる前にまた出しちゃって♡」

「うねんションっやっっ♡♡♡」

「ぶぶめんなわっ…」

「はぁ♡そしたら、もう「発こ」に出してもらおうかな♡」  
すぶくすぶキツキツしてきた...

「私のま●こみたい?♡」

「みたいです...サキュバスのま●こ...」

「えっちな子♡」



「ほら♡くぱあ…♡」

ま●こだ…●これが…

「すごい顔だよ♡」

「これからこの中に、君のおち●ちんが入るんだよ♡」

「ふふ♡君のおち●ちんが入りたがってるね♡」

「こんなにビクンビクンさせて…♡」

「これからたっぷり楽しませてあげる♡」





「じゃあ、入れるね♡」

「は、はら…」

「はぁぁ♡入ってきたよ♡」

「あっ…くぁ…」

「なんだこれ…これがサキユバスま●こ…」



「どう？私のま●んは…♡」

「人間のま●んこより気持ちいいでしょ？♡」

「中のヒダヒダがおち●ちんに絡みついで…ヌルヌルで…」

中……すげえ気持ちいい……おかしくなりそうだ…

「君の顔いいね♡おち●ちんも喜んでるのがわかるよ♡」

「もっと動いてあげるから沢山出してね♡」

「なま…ふざ…」

「はあ♡はあ♡気持ちいい?♡気持ちいい♡ごっごっ♡♡」

「我慢しながらどうしてんのか♡」

「こんな気持ちなら初めての、我慢なんて出来ない…」

「膨らんでる♡膨らんでるのがわかるよ♡」

「出るんだね♡またびゅーびゅーって精●が出るんだね♡」





「あーっーっー」

「あああ♡挿してる♡私の中で♡ぶる♡ぶる♡ん♡」

「せっ♡と♡せっ♡と♡ぢゅ♡ぢゅ♡だ♡ら♡ん♡」

「●ぬまで私に♡挿♡して♡な♡あ♡」



「ふふ♡イケたね♡」

「お腹に君の精●沢山入ったよ♡」

「はぁ…はぁ…」

「腰止めないから♡」

「●ぬまで止めないから、どんどん射精して♡」

「苦しそうだね♡でも、おち●ちんはこんなに元気で♡」

「サキユバスま●こ…やばすぎるよ…」



「また…イきそうっ!」

「私のま●こでまたイクの?♡いいよ♡何回でもイって♡」

「あなたの精●で私の中をいっぱいにして♡」

「君のおち●ちん…もっと味わいたい♡」



「んっあああ♡出してる♡」

「君の精♡が出てるよ♡」

「●んじやう…●本当だ…」

「苦し…苦し…でも、身体が…」

「まだ♡まだ出してる♡」



「もう…む…無理だよ…」

「大丈夫♡まだ出せるよ♡」

「おち●ちゃんは出せるって言うてるよ♡」

「ほら♡イけ♡イけ♡」

「ああああっ！」





あれ？俺どうなったんだ……？

●んだのか……？

何回、出したんだろう……？

「おーい」

ん？なんか聞こえる……



「おーい？大丈夫かー？」

ん？あれ？

俺生きてる？

「もーもー」



「あれ？俺生きてるの？」

「一応ね？」

「ん？」

「私もびっくりだよ♡まさかこんなことになるなんて♡」

「ふんふんふん♪」

「自分の目で確かめてみて♡ふふ♡」



「まさか、こんなことになるなんて♡」

「ほら、鏡で自分のことみてぶらん♡」

「すごく可愛いから♡」

「か、可愛い?」

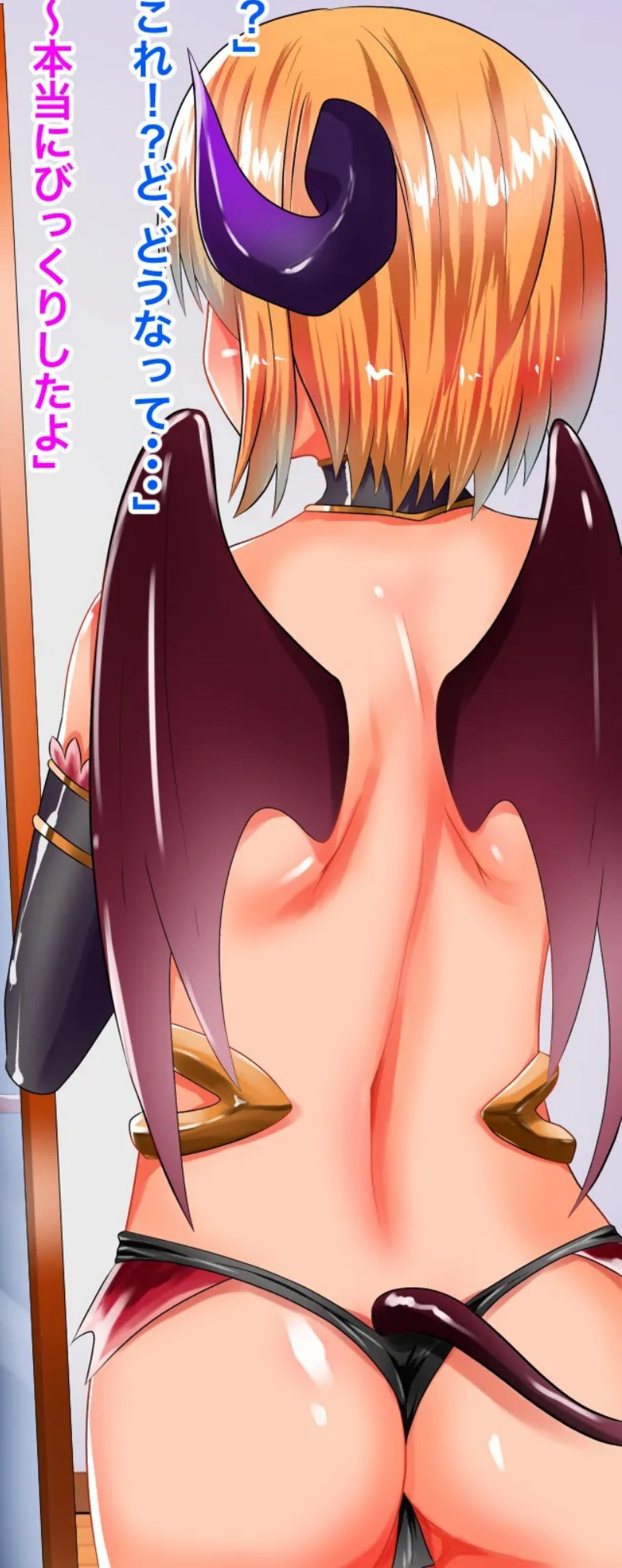
「えー!？」

「なにこれ!?!?どんどうなって...!？」

「いや、本当にびっくりしたよ!」

「まさか、●んだと思ったら君もサキュバスになるんだもん♡」

「俺がサキュバスに...?!」



「すげえ……」

女の子の身体だ……

「はぁ……♡」

気持ちいい……なんだろうこの感じ……



「私もまた君を食べちゃいたいもん♡」

「こんな可愛いんだもんね♡わかるよ♡」

「ふふ♡自分の身体に見惚れてるの?♡」



「いい事…教えてあげる♡」

「いい事…?」

何だろう…

「うん♡」

「実はね…サキュバスの身体って全身が性感帯で特に…」



「ひゃっ！」

「尻尾は格別に感じやすいんだよ♡」

「なななんだ!?!」

「ん♡可愛い♡」

「こんない反応されちゃうと…いじめたくなっちゃう♡」



「ふんっ♡ふんっ♡な…♡♡♡」

尻尾を舐められてるのか？

「はあ♡はああ♡」

こんな感覚味わった事ないぞ…♡気持ちいい…

「感じてるんだね♡可愛いよ♡♡♡」

「せっ♡プロプロしてあげな♡♡♡」



「顔すごく赤いよ♡」

「そ、それは…はあ…んっ♡」

「君の尻尾…美味しい♡」

下半身が熱くなっ…

力が抜けていく…



「サキユバス同士のS●X…教えてあげようか♡」

「はあ♡はあ♡サキユバス同士…?」

「そう♡サキユバス同士が愛し合うの♡」





「人間の時以上の快樂が味わえるよ♡」

人間の時以上…!!

「ふふ♡興奮してきたでしょ?♡」

「例えばこんな風に尻尾を絡ませたりして…んっ♡」

「ぞわぞわって…くすぐりたいけど気持ちいい…」

「尻尾ってこんなに気持ちいいの?♡」

「サキュバスのかなり敏感な性感帯だからね♡」

「ほら尻尾だけじゃなくて乳首もお♡」

「んっ♡」

「ああ可愛いよ♡」





「ほらほら♡乳首も気持ちいいよ♡」

「ほ、ほあ♡」

「ふふ♡私も気持ちいいよ♡」

「これからもっと2人で気持ちよくなるからね♡」



「首筋を舐めたり…♡」

「んっ♡はあ♡」

「尻尾も…クイ♡クイ♡」

「あっ♡んっ♡」



「ムムムな...♡」

「赤●の筋をなぞっ♡♡♡」

「♡♡♡」

「♡さっしゅん♡」



「こんな風に…尻尾の先で♡」

「はぁ♡君の綺麗なま●この中…見えちゃったね♡」

「ぐちよぐちよになった…君のま●」

「恥ずかしい…けど、何だか嬉しい♡」

「このぐちよぐちよま●んに私の尻尾を…んっ♡」

「ひっ…んっ♡」

入ってきてる…

こんな感覚なんだ…



「尻尾で中をかき回して♡」

「はぁ♡気持ちいいと♡はぁ♡はぁ♡」

「はぁ♡♡気持ちいいと♡」

「もっど。。。もっど感♡♡」

「私も気持ちいいから♡」





「ああ♡イキそうだし♡」

「うう♡イっ♡ん♡」

「あああ！イクっ♡」

「はあ♡はあ♡」

「サキユバスの身体でいつちやったね♡」

「はあい♡」

「でもまだイケるよね♡」

「はあひい♡」

「俺も尻尾入れてみたいです♡」

「ふふ♡いいよ♡入れて♡」





「じゃあ、入れますね♡」

「うん♡っん♡あん♡」



ああ気持ちさらさら...んねな●んよら気持ちさらさら...  
「2人で繋がったね♡」



「ほら♡尻尾動かしてみてください♡」

「うん♡」

「あん♡ん♡ん♡そう♡」

「気持ちいい♡」

「上手だよ♡もっと、動かして♡」



「どんどん濡れてきてる♡」

「ヌルヌルで気持ちいらんどしょ♡」

「すげえ絡みしへ…」

「いやらしい音が聞こえるね♡」

「んっ♡んっ♡んっ♡早くなっ♡てき♡てるよ♡んっ♡」

「き…気持ちよすぎっ…勝手に…」

「いいんだよ♡思うがままにして♡」

「なんだか…イキそうなの♡♡」

「んっ♡あん♡わ、私もイキそうだから…」

「一緒にイ♡んっ♡」





「い、イクっ♡」  
「んんあっ♡」

なんだこれえええええ!?

ぎもぢい♡♡♡♡♡

「はぁ♡はぁ…♡」

サキユバスの身体ってすごいかも…

まさか、自分がサキユバスになるなんて…

「ふふ♡サキユバスの身体っていいでしょ？♡」

「うん♡」

「まだまだイケるよね?」♡

「うん♡全然大丈夫♡」

この有り余る体力すごい...

これですつとエッチ出来る...かな?





「ねえ♡お母♡ちゃん♡」  
「んんあ♡♡」

「んっ♡」

ディープリキス。。。気持ちさらさら。。。♡

いやらしら首を立てながら。。。舌を絡めあって。。。







読んでくださり、ありがとうございます！  
次のページからは、おまけページです！

まぐら







































































